

第4回森町総合計画審議会 議事概要

日 時：平成17年12月22日（木）午後2時～3時45分

場 所：町民生活センター 講義室A・B

出席委員：鈴木奉会長、友田和副会長、太田委員、榊原委員、岩附委員、打田委員、大石委員、大竹委員、奥宮委員、小倉委員、小野委員、片岡委員、川口委員、鈴木よ委員、友田明委員、原田委員、松井委員、村松委員、（岩田協働まちづくり委員会副会長）

事務局：町長、鈴木課長、杉山課長補佐、長野係長、福島主事
静岡総研（石井主任研究員、澤田研究員）

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

（1）「まちづくり構想に関する提言」について

＜プロジェクターと資料に基づき協働まちづくり委員会会長（小倉豊寿）、副会長（岩田春喜）より説明＞

＜意見・質疑応答等＞

委 員：まちづくりの目標の中で、「みんながみんなで動くまち」とあるが、説明では「働くまち」というように聞こえたがどちらが正しいか。

委 員：「みんながみんなで動くまち」が正しい。

委 員：第3回の審議会の時に、アンケートの結果をみると、住民の危機感が薄いという印象を受けるというご意見があった。協働まちづくり委員会では、それぞれの地区から委員が集まり、まちづくりに関して意見を出してきた。今後とも委員は各地区においても、この危機感を住民に広げていくとともに、積極的にまちづくりに関して活動することも話し合っているので、報告させて頂く。

委 員：この提言書のように、住民が動けば、森町はきっと良くなると思う。大事なことは、実際に住民みんなが活動をしていくことだと思う。文章にしてしまうと、分かりづらいが、これだけの意見は簡単にはまとまらなかったと思う。本当に御苦労があったと思う。

（2）「地域ごとの懇談会」における意見の概要について

＜資料に基づき事務局説明＞

< 意見・質疑応答等 >

会 長：町民アンケート調査結果の傾向と比べてみて、そんなに違いはないと思うが、どのような感じか。

事務局：産業振興の問題、例えば工業の振興は、重要度と満足度の比較でも、課題となっていたが、地域ごとの懇談会でも多くの意見が出た。町への収入という観点からの企業誘致や働く場所の確保という面でも、アンケート結果と同様な感じであった。また、バスの問題、病院の問題などもアンケート結果と同様に多くの意見が出たという感じである。

委 員：三倉地区での意見で携帯電話の電波が悪いということが書かれているがどの辺が悪いのか。

委 員：この問題については、12月議会でも一般質問させてもらった。全町的にはどの辺が悪いのかというのは、分からないが、三倉地区では、上野平・中村町内会などがまとまって電波が悪い。吉川筋でも亀久保のあたりが悪いというのを聞いている。一宮地区など町内でもところどころ電波が悪いところがあるので、次世代携帯（FOMA）について状況を把握していきたいとのことであった。

副会長：地域ごとの懇談会での意見は、地域住民の生の意見である。若い人の意見ではどのような意見が多かったのか。また、中高年の意見としてはどのような意見があったのか、若い人たちとの違いがあるのかその辺をお聞きしたい。

事務局：しっかりと整理してはいないが、若い年代の意見としては、働くところが多ければ、町から人が出ていかないのではといった意見、自分の子どものことなどに直接関わる教育問題について多くの意見が出た。また、まちづくりに関しては、かなり思い切ったことをやっていかないとダメなのではないかという意見もでた。中年世代の意見としては、その年代の方は、いろいろな地域に働きに出ていることから、外からみた森町という観点からの意見というものが多く出たという印象である。高齢者からは、森町病院への期待など、健康・福祉分野についての意見が数多く出たという印象である。

委 員：バスの問題についても意見が出ており、町からも2千万円ほどお金を出していると聞く。例えば、小型化して効率よくまわるように、町のほうでもそういった研究が必要ではないかと思う。

会 長：町全体からもバスについては多くの意見が出ている。総合計画にも将来的なものとして載っていくと思うが、個々の施策についてはこれから詰めていくとして、事務局として現段階で何か考えがあればお聞きしたい。

事務局：バスに関しては、森町病院への足の確保という問題等いろいろな要望がでており、整理していかなくてはいけないと思う。小型化については、大河内線については小型化を実施している。新しい小型バスを購入するよりは古い大きいバスを利用した方が初期投資がかからないということから、現在は余剰になったバスを有効に利用している。秋葉バスサービスについてもかなりコストを下げている。一方で、三倉・天方地区については、地形的に巡回するということはなかなか難しく、コスト的にも厳しい状況である。袋井市、菊川市等にも聞き取り調査を行っており、なかなか難しい状況もあると聞いている。また、民間が退くということは、採算が取れないという現実でもあり、住民の要望にはきりがなく難しい問題であるということをご承知おき願いたい。

会 長：前回、委員から総合計画を作成していく上で、財政状況についての資料、財政シミュレーションのようなものがないかという意見があった。来年度の予算、交付税等からも傾向が読み取れると思うが、10年間の見通しとなると大変難しいとは思っている。町としてコメントができるようであればお願いしたい。

事務局：現在のような状況で、10年先を見通すというのはなかなか難しい問題である。富士宮市でも補正予算が組めず、人件費に手をつけた。これには、当年度の交付税さえも予測できなかったという背景がある。先を見通していくということは重要なことであるし、そうしていかなくてはいけない。しかしながら、見通しという観点からは、来年度の交付税が出口ベースで概ね5%減という傾向が分かるとしても、三位一体の改革が進む中でどのように変わっていくのか、国からの仕送りが見込めない状況で先を見通すのは非常に難しい。総合計画と財政の問題を見ていくと、計画にはいろんな可能性を載せていくといった整理となる。総合計画は、事業をやるときに国・県から支援をもらう際に、総合計画ではこのような位置づけになっているので支援をお願いしたいという性質のものでもある。そういう意味からは、総花的という指摘もあるが、その中で、重点をおく方向をだしていくといった形になる。位置づけとしては、夢のあるものを載せていく必要もあり、10年後の財政がわからないので計画には載せないというものでもない。方向性としては、こういう方向性で進んでいきたいというものはできるはずであり、計画の中から取捨選択をして、毎年度の予算を立てていくといった整理になる。財政的に厳しい見通しであるということには変わりはなく、赤字、再建団体にならないように努力をしていくということしか言えない。

委員：提言は素晴らしいと思う。これをどのように町民に広げていくかが重要である。提言を読んで感じたことだが、例えば、ゆとり教育になり学校5日制になって、土曜日をどのように使うかということが問題になっている。ボランティアについても、なかなか忙しくて出来ないという声を聞く。友田家などの文化財もボランティアで守っていくことが重要となってきたと思う。民俗資料館についても、ものが多すぎて倉庫のようになっており、もう少し整理してもよいのではないか。いろいろと行事があることから、田舎の人は、都市の人より忙しいといった側面もあり、時間の使い方をいろいろと考えなくてはいけない。提言の内容の1つでもよいので、町民が意識をもって行動していかなくてはいけないのではないかと思う。

委員：各地の「地域ごとの懇談会」に出席させて頂いた。若い人が出ている地区もあったが、高齢者が多い地区もあった。そういった意味では、各地域、すべての住民の意見を集約することは難しく、資料には意見がまとめられているが、これは懇談会に出席した人の意見であって、すべての人の意見ではないということを理解していないといけな。総合計画策定への姿勢、まちづくりへの方針ということでまとめてあるが、地域ごとの懇談会が総合計画策定のために開催していると理解している人ばかりではなく、従前の「町長と語る会」のような感じで参加している人が多かったように思う。町民アンケート調査、地域ごとの懇談会、協働まちづくり委員会からの提言の3つが終了したが、今後どのように進めていくのか。

事務局：地域ごとの懇談会については、町内会長連絡協議会のご協力をえて開催した。町内会においては、総合計画策定のために集まって下さいということを町民の人に周知していただくのがなかなか難しかったということも聞いている。総合計画策定に関しての意見としては、町の方針を早く出して欲しいといった意見もあったが、町民の声がどこにあるのかということを知る上では、今回のような開催方法をとらせていただいたところである。＜今後の進め方については、参考資料1にて説明＞

地域ごとの懇談会では、細かい意見が出てきており、まちづくり構想に関する提言にも、具体的な取り組みというものが出てきている。そういったものは、基本計画のほうに反映されていくと思う。今後のスケジュールについては、大変お忙しいところ申し訳ないが御協力願いたい。

委員：審議会委員としてここに参加しているが、協働まちづくり委員会は10回にわたる議論をくりかえしてきて、提言を取りまとめた。そこを理解しなくてはいけない。地域ごとの懇談会の

意見もまとめられている。その裏にある多くの人の意見を認識して、限られた時間の中で、真剣に議論しなくてはならないと思う。ここにいる委員全員がそのことを理解していかないといけないと思う。

(3) 町民アンケート調査の結果報告書(修正点)について

<資料に基づき静岡総合研究機構より説明>

<意見・質疑応答等>

特になし

(4) その他

事務局：次回開催は、1月17日(火)14:00から町民生活センター集会室の予定。内容は、総合計画基本構想案について諮問の予定。また、「まちづくり構想に関する提言」のリーフレットを1月16日付け各世帯配布をするので、ご承知おき願いたい。森町ホームページにも提言を載せていく予定。

委員：まちづくり構想に関する提言について分かりにくいところがあれば、協働まちづくり委員会としても説明をするなどの協力をしていく。

会長：そのような機会があれば、是非ご協力を願いたい。基本計画を作成するようになるとそのような機会が欲しいかもしれない。来年度秋をめどに基本計画を策定していくという予定でよかったか。

事務局：基本計画については、現時点では、来年度12月議会に報告する予定で進めているので、秋ぐらいを目途に作成していきたい。

副会長：これから総合計画について細かい話を進めていくわけだが、少子高齢化など社会情勢において、数多くの問題がある。財政の問題もその1つであり、大変頭が痛い問題である。限られたお金でどこに使っていくかを考えなくてはならない。

商業の活性化、産業の振興について、産業界の声、そういった組織の声を聞いていただきたいので、そういった機会を作っていくことも大切である。これからは、官と民が一体感をもってやっていかななくてはならないと思うので、互いの団体の問題を知ることが大事である。商業の分野では、郊外の大型店舗の出店を規制するような動きも出てきている。

4 閉 会

(以上)